

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20530196

研究課題名（和文） 労働市場における安全衛生と失業の分析

研究課題名（英文） Work Safety and Unemployment in the Labor Market

研究代表者

佐々木 勝 (SASAKI MASARU)

大阪大学・社会経済研究所・准教授

研究者番号：10340647

研究成果の概要（和文）：

研究期間中の成果としては工藤准教授（北海道大学）との共同論文“Employment and Hours of Work”が European Economic Review に掲載が決定した。また、堀井准教授（東北大学）との共同論文“Dual Poverty Trap”も Journal of Public Economic Theory に掲載が決定した。小原准教授（大阪大学）と町北研究員（ジェトロ・アジア研究所）の共著『雇用保険のマイクロデータを用いた再就職行動に関する実証研究』をもとに海外学術雑誌に掲載を目指して論文を執筆し、本学の Discussion Paper としてまとめると同時に、Labour Economics や Japanese Economic Review に投稿した。

研究成果の概要（英文）：

The joint paper co-authored with Prof. Kudoh (Hokkaido University), entitled “Employment and Hours of Work” has been published in Discussion Papers in Economics and European Economic Review (2011). Additionally, the joint paper with Prof Horii (Tohoku University), entitled “Dual Poverty Trap: Intra- and Intergenerational Linkage in Frictional Labor Markets” was expected to be publish in Journal of Public Economic Theory. Prof. Kohara (Osaka University) and Dr. Machikita (IDE) and I jointly have preceded our research project on unemployment insurance and job search. We wrote four papers, two of which are submitted to Japanese Economic Review and Labour Economics.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済政策

キーワード：労働市場、安全衛生、マッチング関数、長時間労働、失業

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初、日本経済は様々な問題が潜んでいた。働いていても収入が生活必要水準に届かない「ワーキング・プア」が増えており、収入の面で格差拡大傾向がみられた。過重労働による過労死者や自殺者の増加、成果主義の導入によるストレスからうつ病患者の増加のように職場環境の悪化も懸念された。また、労働環境の地域間格差も拡大していた。以上の状況から、これまで以上に過重労働、失業、労働安全衛生の問題に取り組む必要があった。特に労働安全衛生の研究は、今まで社会学、心理学や保健の分野でも取り組んでこられたが、経済学の分野では分析対象として十分に引き上げてこられなかった。しかし、経済環境における人間や組織の行動規定のメカニズムを分析対象とする経済学の分析方法は、労働安全衛生の問題に取り組むのに有効であると考えられた。

2. 研究の目的

科学研究費交付期間内の研究目標は、(1) 経済学的観点から、労働時間の長期化の選択と格差拡大、労働時間と労働者数とのトレード・オフの関係を解明し、(2) 『職業安定業務統計』(厚生労働省)や『労働力調査』(総務省)のデータ等を使用して失業率に関する実証分析(マッチング関数の推定)から地域間での就職確率の違いを検証し、(3) 企業規模や産業種類をコントロールした上で、労災発生件数(率)と失業率の相関性と雇用政策の影響について考察する予定であった。

3. 研究の方法

本研究では、基本的に個人で研究をすすめた。またすでに他の経済学者との共同で研究しているものに関しては継続して研究を進めた。研究方法・手順としては、関連論文を読んだり、研究会・学会(国内・海外)に出席したりして、経済学の分野だけでなく、労働安全衛生や労務関連の知識を身につけながら、それらの分野との関連性を理解することに努めた。初年度には、関連文献のレビューと基本的なモデルの構築に研究時間を注いだ。実証研究では、関連するデータは研究目的に適するようにデータを加工し、データの基本的な記述統計をまとめた。

4. 研究成果

科学研究費交付期間内の研究目標は以下の3つであった。

(1) 労働時間の長期化の選択と格差拡大、労働時間と労働者数とのトレード・オフの関係を考察する。

(2) 『職業安定業務統計』(厚生労働省)や『労働力調査』(総務省)のデータ等を使用して失業率に関する実証分析(マッチング関

数の推定)から地域間での就職確率の違いやサーチ・フリクションの程度を検証する。

(3) 企業規模や産業種類をコントロールした上で、労災発生件数(率)と失業率の相関性と雇用政策の影響について考察する。

研究期間中の成果は以下にまとめる。

(1) に関する研究では、期間中に工藤准教授(北海道大学)との共同論文“Employment and Hours of Work”を書き上げた。この論文では、企業が負担する採用コストが高いときに、生産に必要な労働投入量を「労働者」と「労働時間」に分けて、それぞれの最適な労働需要量と両者の関係を考察した。本論文は、大阪大学のディスカッション・ペーパー(Discussion Papers in Economics and Business, Osaka University)に上梓し、また海外学術誌である European Economic Reviewに掲載された。また、堀井准教授(東北大学)との共同論文“Dual Poverty Trap: Intra- and Intergenerational Linkage in Frictional Labor Markets”を書き上げ、海外学術雑誌である Journal of Public Economic Theoryに掲載が決定した。この論文では、世代間の貧困の継続だけでなく、世代内における教育投資の過小評価が貧困の罠に陥る源泉になることを示した。

(2) に関する研究では、小原准教授(大阪大)と町北研究員(ジェトロ・アジア研究所)の共著『雇用保険のマイクロデータを用いた再就職行動に関する実証研究』をもとに海外学術雑誌に掲載を目指して論文を執筆中である。この研究では、厚生労働省が管理する大規模データ「雇用保険業務統計」と「職業安定業務統計」を被保険者番号で繋げた個票データを利用して、労働市場の状況(求人数・求職者数)や雇用保険給付が求職者の求職期間や新しい職場での定着率から測定したマッチングの効率性にどのように影響をあたえるかを検証した。また、44歳以下と45歳以上で雇用保険給付の最大支給額が非連続に変化することに注目して、雇用保険制度が求職者の求職行動に影響を与えるかを quasi-natural experiment から検証した。すでに、2本の論文が完成し、本学のディスカッション・ペーパー(Discussion Papers in Economics and Business, Osaka University)に上梓した。それらは、Labour Economics や Japanese Economic Review に投稿した。

(3) に関する研究では、安全衛生に関する論文(Unemployment and Work Safety in a Search and Matching Model)を本学のディスカッション・ペーパー(Discussion Papers in Economics and Business, Osaka

University) に上梓した。本論文では、労働災害発生率と失業率の関係が counter-cyclical や pro-cyclical になる条件をサーチ・マッチング・モデルから考察した。現在改訂中で、近日中に海外学術誌に再投稿する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (14 件)

- ① Noritaka Kudoh, Masaru Sasaki, "Employment and Hours of Work," *European Economic Review*, 55(2), 2011: 176-92
- ② Miki Kohara, Masaru Sasaki and Tomohiro Machikita, "Is longer unemployment rewarded with longer job tenure?" OSIPP Discussin Paper, DP-2011-E-001, Osaka University, (2011)
- ③ Masaru Sasaki, Miki Kohara and Tomohiro Machikita, "Measuring Search Frictions using Japanese Micro Data," *Discussion Papers in Business and Economics*, 11-07, Osaka University, (2011)
- ④ Takao Asano, Hiroko Okudaira and Masaru Sasaki, "An Experimental Test of a Search Model under Knightian Uncertainty" (with), *Discussion Papers in Business and Economics*, 11-05, Osaka University, (2011)
- ⑤ Yoichi Hizen, Keisuke Kawata and Masaru Sasaki, "An Experimental Test of a Collective Seach Model", *Discussion Papers in Business and Economics*, Osaka University, (2011)
- ⑥ Noritaka Kudoh, Masaru Sasaki, "Precautionary Demand for Labor in Search Equilibrium," *Bulletin of Economic Research*, 62(2), 2010: 133-53
- ⑦ Tamie Matsuura, Masaru Sasaki, "Can the Health Insurance Reforms stop an increase in medical costs for old- and middle-aged persons in Japan?" *Discussion Papers in Business and Economics*, 10-13, Osaka University, (2010)
- ⑧ Kenn Ariga, Masako Kurosawa, Fumio Ohtake, Masaru Sasaki and Shoko Yamane, "Organization Adjustments, Productivity and Job Training: Evidence from Japanese Automobile Makers," (2010) GCOE Discussin Paper Series, No. 147, Osaka University
- ⑨ Masaru Sasaki, "Unemployment and Workplace Safety in a Search and Matching Model" *Discussion Papers in Business and Economics*, 10-14, Osaka University, (2010)
- ⑩ 大竹文雄、佐々木勝、「スポーツ活動と昇進」『日本労働研究雑誌』第 587 号 62-89 頁 2009 年 6 月
- ⑪ Kenn Ariga, Masako Kurosawa, Fumio Ohtake and Masaru Sasaki " An empirical analysis based upon an internet survey of the youth" (2009) GCOE Discussion Paper Series, No. 79, Osaka University
- ⑫ Masaru Sasaki, "Matching function for the Japanese labour market: random or stock-flow?" *Bulletin of Economic Research*, 60(2), 2008: 209-30.
- ⑬ 佐々木勝、小畑史子「労働時間」『雇用社会の法と経済』第 4 章 (編) 荒木・大内・大竹・神林 2008 年
- ⑭ 佐々木勝、「雇用保険のマイクロデータを用いた再就職行動に関する実証研究」『マッチング効率性についての実験的研究』JILPT 資料シリーズ No. 40 2008 年

[学会発表] (計 5 件)

- ① Masaru Sasaki, "An Experimental Test of a Search Model under Knightian Uncertainty" the 2011 Asia-Pacific Economic Science Association Meeting, University of Nottingham, Malaysia
- ② Masaru Sasaki, "An Experimental Test of a Search Model under Knightian Uncertainty" the 2010 International Workshop on Experimental Economics and Finance, Xiamen University, China
- ③ Masaru Sasaki, "An Experimental Test of a Search Model under Knightian Uncertainty" 2010 年日本経済学会秋季大会、関西学院大学
- ④ Masaru Sasaki, "Can the Health Insurance Reforms stop an increase in medical costs for old- and middle-aged persons in Japan?" 2010 年日本経済学会春季大会、千葉大学
- ⑤ Masaru Sasaki, "Unemployment and Workplace Safety in a Search and matching Model" EALE Annual Conference, 2009, Tallin University of Technology, Tallin, Estonia.
- ⑥ Masaru Sasaki, "Productivity and Job Training: Evidence from Japanese Automobile Makers" FESAMES 2009, University of Tokyo, Tokyo.

- ⑦ Masaru Sasaki, "Organization Adjustments, Productivity and Job Training: Evidence from Japanese Automobile Makers," 2009年日本経済学会秋季大会、専修大学
- ⑧ Masaru Sasaki, "Determinant of Capital for Workplace Safety in a Search-Matching Model" FESAMES 2008, Singapore Management University, Singapore.

〔図書〕(計2)

- ① Masaru Sasaki, "Child labor, Schooling and Poverty in Latin America" (with G. Sedlacek, S. Duryea and N. Ilahi) Child Labor and Education in Latin America: An Economic Perspective edited by P. F. Orazem, G. Sedlacek, and Z. Tzannatos, Ch. 2, 33-51: Palgrave Macmillan: New York, 2009.
- ② 佐々木勝、「労働時間」(共著・小畑史子)『雇用社会の法と経済』第4章 (編) 荒木・大内・大竹・神林 2008年

〔その他〕

- ① 佐々木勝、「2010年ノーベル経済学賞：サーチ=マッチング・モデルで失業問題に取り組む」経済セミナー 2011年2, 3月号, p. 72-74
- ② 佐々木勝、「製造業の職業訓練：競争力を生む配置転換」日経ビジネス『気鋭の論点』2011年1月24日号 p. 68
- ③ 佐々木勝、「社会規範と不幸な失業」Business Labor Trend 2010年4月号 8ページ

ホームページ

<http://www.econ.osaka-u.ac.jp/~sasaki/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐々木 勝 (MASARU SASAKI)
大阪大学・社会経済研究所・准教授
研究者番号：10340647

(2) 研究分担者

なし